



平成 17 年 1 月 31 日

各 位

上 場 会 社 名	ニッシン債権回収株式会社
代 表 者	代表取締役社長 天 野 量 公 (東証マザーズ コード番号: 8426)
問 合 せ 先	常 務 取 締 役 合 田 益 己
電 話 番 号	(東京) 0 3 - 5 3 2 6 - 3 9 7 1
当社の親会社	株式会社ニッシン
代 表 者	代表取締役社長 嵯 岡 邦 彦 (東証第一部 コード番号: 8571)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 16 年 11 月 4 日の中間決算発表時に公表しました、平成 17 年 3 月期(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)の業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 17 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	6,728	1,633	956
今 回 修 正 予 想 ( B )	8,335	1,706	995
増 減 額 ( B - A )	1,607	73	39
増 減 率 (%)	23.9	4.5	4.1
前期実績(平成 16 年 3 月期)	4,599	750	406

#### 2. 平成 17 年 3 月期個別業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	6,526	1,579	921
今 回 修 正 予 想 ( B )	8,141	1,642	958
増 減 額 ( B - A )	1,615	63	36
増 減 率 (%)	24.7	4.0	4.0
前期実績(平成 16 年 3 月期)	4,599	751	407

#### 3. 修正の理由

##### (1) 個別業績

営業収益につきましては、当社が不良債権処理の一環として取得している買取不動産 2 物件を売却したことにより、買取不動産売却高が約 1,144 百万円発生したこと、及び債権の買取時に買取債権回収高及び債権回収原価に同額が計上される代理回収弁済金が、前回の予想発表以降に 601 百万円発生したことにより、前回発表数値 6,526 百万円を 8,141 百万円に修正いたしました。

一方、利益面につきましては、上記買取不動産の売却による利益貢献が 433 百万円発生いたしましたものの、上記代理回収弁済金を除いた買取債権の回収による利益貢献が 280 百万円未達成となるとともに、貸倒関連費用が 60 百万円増加する見込みとなったため、経常利益、当期純利益は前回発表数値を上記のとおり修正いたしました。

## (2) 連結業績

個別業績と同様の理由により、業績予想を修正しております。

## 4. 将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在及び将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在及び将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。

実際の業績に影響を与える潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の回復に伴う不良債権の流動化市場の収縮
- ・ 競争激化による特定金銭債権の買取価格の水準の高騰及び受託手数料の低下による利益率の下落
- ・ 回収期間の長期化による収益性の悪化
- ・ 債権管理回収業に関する特別措置法の改正
- ・ 好条件での資金調達先の有無及び金融政策等の変更による影響
- ・ 親会社である(株)ニッシンの事業戦略及び経営成績等
- ・ 当社の利用する情報、基幹システム及びネットワークシステムの信頼性

ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以 上